

赤平炭鉱アートプロジェクト

-炭鉱（ヤマ）の遺産（タカラ）を掘り起こす-

Akabira Mining Heritages Art Project

上遠野 敏
KATONO Satoshi

1.はじめに

赤平炭鉱アートプロジェクトは「産業遺産を活かす地域活性化実行委員会」及び「炭鉱の歴史を保存・継承する市民会議（赤平市の市民団体）」の主催で、2004年8月9日（月）～29日（日）まで開催された。

空知産炭地の活性化事業は、ドイツ、ヴィルヘルム・レームブレンク美術館館長であるブロックハウス博士の講演会「アートによる地域再生」が、2001年10月札幌で開催されたのが発端である。ブロックハウス博士は、ドイツ最大の産炭地であるルール地域の再生ををめざした I B A エムシャーパーク構想の中心的人物として活躍した。

●I B A エムシャーパーク構想

産業構造転換によって急激に衰退したルール地域を再生するために、世界中から著名なアーティストやプロジェクトマネージメント専門家などが地域シンクタンクに集結して、従来には見られない壮大なプロジェクトを展開している。1989年に開始、十数年経過した今日では、輝かしいドイツの一時代を担った石炭産業や鉄鋼業などの既存の産業施設を有効に残しながら、アートと建築技術が融合して、周辺環境と調和させながら、未来に生きる産業遺産として甦った。産業遺産を活用した新規産業の創造や、定住者、来訪者の増加が地域の未来に明るさを与えている。地域全体の付加価値が付いたことで新規参入企業も増えている。（総予算 3,000 億円）

ドイツ・ルール地域での取り組みを報告するブロックハウス博士の講演会「アートによる地域再生」は、炭鉱遺産の保存や活用を模索していた空知地域の市民、行政をはじめ大勢の来場者の心に響いて予想外の反響となった。その意味を継続するため、2003年に「産業遺産を活かす地域活性化実行委員会」を立ち上げ、再度7月に、ブロックハウス博士を招請して、ワークショップや講演会を開催した。

●ブロックハウス博士招請事業

- ・ワークショップ「ブロックハウス博士と歩こう会」

三笠市幾春別・幌内地区

- ・講演会「産業遺跡を活かした地域の再生」

美唄市・アルテピアッツァ美唄

- ・公開セミナー

「I B A エムシャーパーク構想の概要と成果」

札幌学院大学社会連携センター

ルール地域での再生の先例ふまえ、ブロックハウス博士

は、三笠市内に残る産業遺産に大いに触発され、「産業的自然」（インダストリアル・ネチャー）との調和や生活の場を見せる「生きた博物館」の展開に大きな示唆を与えた。特にアートや建築、ランドスケープの力を融合して、産業遺産を活用した、「場」としてのプラットホームを作りパフォーマンス（表現）する重要性を説いた。

そこで、2004年度は、ブロックハウス博士からの示唆を具現化して、「産業遺産を活かす地域活性化実行委員会」は、次の2点の活動に焦点を充てた活動を展開した。

○炭鉱遺産キャンペーン事業

『多くの人に炭鉱遺産を巡ってもらい、炭鉱遺産の持つ可能性を地域住民の皆さんにアピールする。』

これは、地域外の来場者の新鮮な目によって炭鉱遺産の価値を発見することにより、地域住民が、その良さや価値を改めて認識することを促す。「炭鉱を歩こう-そらち炭鉱遺産散歩-」のキャンペーンのもと空知各所の炭鉱遺産を巡る催事がおこなわれた。

○炭鉱遺産空間活用事業

『誘客を促進するための目玉となる催事を、地元住民の皆さんと専門家との協働で展開することによって、炭鉱遺産が存在する空間の具体的な活用例を具体化する。』

ここで、「炭鉱遺産空間活用事業」の数々の催事のメインイベントとして、赤平市の炭鉱遺産や市内を活用した、アートプロジェクトの依頼を筆者が受けた。

2. 調査

札幌から赤平は100km。下見や会場確定、催事内容確定などの打合せで数度訪れた。その度に、赤平の炭鉱関係者、商工会議所、商店街、赤平市役所の方々に炭鉱施設の案内や炭鉱の歴史、赤平市の歴史など、ご教授を受けた。さらに、炭鉱施設や商店街施設の供与など、便宜を図って頂いた。赤平の歴史は炭鉱の歴史とも言える。赤平の開基は明治24年。歌志内から山越えして、空知川沿岸の農耕適地に入植した年である。赤平の石炭の発見は、安政年間にさかのぼり、松浦武四郎の「石狩日誌」に路頭炭の記載がある。歌志内や夕張の石炭開発が明治20年代初期から行われていた。赤平は、大正2年11月に鉄道が開通すること

で、ようやく炭鉱開発が始まった。

大正 11 年（1922 年）には、人口増加に伴い歌志内から分村して赤平村となった。炭鉱開発も昭和に入るとさらに盛んになり、戦時中が最も活況を呈した。主な炭鉱は赤間（北炭）、豊里（昭和電工）、大谷沢、新赤平、茂尻（三菱）、赤平炭鉱（住友）などで、広範囲で採炭されていた。戦後、朝鮮戦争による増産もあったが、昭和 30 年代から開始されたエネルギー政策の転換により、昭和 42 年豊里炭鉱に始まり、次々に閉山。最後まで残った住友赤平炭鉱が平成 6 年 2 月に閉山して赤平の石炭の歴史は閉じることになった。

プロジェクトの主会場となる、住友赤平炭鉱は昭和 13 年（1938 年）に開発に着手、赤平では最後発であった。昭和 38 年に立坑が完成して、昭和 40 年には年産量 190 万トン記録し、人員は 5,000 名であった。当時の赤平駅からの石炭の出荷量は、あらゆる貨物量で日本一の規模であったことから、活況のほどが伺える。閉山後も住友石炭鉱業（株）は、密閉抗口から湧出する炭鉱メタンガスを使用し、発電利用など技術試験を行っている。

（写真-1）

住友炭鉱赤平の立坑（最深部 800m）ヤードや抗口浴場跡、大型の採炭機器が展示してある自走砕工場の説明や見学、ズリ山、選炭ステップ、商店街の空き店舗、当時の栄華を残す、山田御殿、旧料亭など赤平の町の見学をふまえて、赤平の歴史と場の認識を探り、赤平の人々と共に何が出来るのかを考えた。



写真-1 住友赤平炭鉱立坑

3. 企画

炭鉱の産業遺産を活かしながら、閉山後、寂しくなりつつある赤平の町の商店街や人々をアートでつなぎ、共に喜びを共有して活性化することを目的とした。

赤平の歴史や意味が反映されないアート作品を、そのまま持って来て展示する方法では、人々の関心は惹かないし、作り手の姿勢も問われて、ますますアートは人々との距離を広げることになる。

ここでは、赤平の人々と協働しながら、歴史から新たな意味を創出する作品をメインに、アートの持っている力で、赤平の町の人々に元気を与え、にぎやかにするコミュニケ

ーションを作り出すことを企画した。

人々と交流を促進するためには、本校学生のような若者が、町に繰り出し熱心に活動するのが最善であると考えた。それをふまえ、フィールドでのアート活動を通して、生きた現場での街づくり、人づくりの実践的教育が体験できる貴重な試みとして捉えた。

実施概要は、「上遠野敏と札幌市立高等専門学校学生（コン・プラ 4）とゆかいな仲間」展の三部構成とした。

地元の赤平の人々も、遠方から見に来てくれる人々も作品を通したコミュニケーションを楽しんで頂き、そして栄華の時代を経て、現状の在り様を認識して頂き、産業遺産の価値を見付けだしてもらい、その活用例を示すことをねらった。なにより、作り手も楽しめて、赤平の方々との協働で作り上げる企画を、下記の 3 人が中心になって参加者と協議しながら策定した。

○全体企画構成・赤平炭鉱アートプロジェクト代表
上遠野敏（本校教授・彫刻家）

○「コン・プラ 4」リーダー

下田麻美（本校 4 年工業デザイン）

本校 1 年生～4 年生の有志 30 名が参加（自主活動）

○「ゆかいな仲間」ディレクター

猪熊梨恵（本校 5 年生建築デザイン）

本校学生、専攻科生、卒業生が作家として 10 名参加

札幌市立高等専門学校の学生、卒業生、教員が集結して、赤平市内各地で下記のアートメニューが決定された。

マップの数字と下記表記の数字は連動。（図-1）

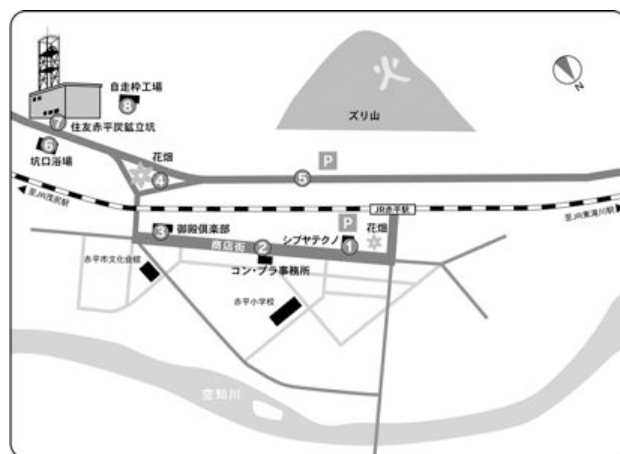


図-1 赤平炭鉱アートプロジェクトマップ

①シブヤテクノ（駅前通り、空き店舗）
「作品展示・販売」「赤平カラオケ」
ゆかいな仲間作品、コン・プラ作品

- ②ふれ愛はうす（赤平中央商店街振興組合）
「コン・プラ移動型イベント」（コン・プラ事務所）
コン・プラ作品
- ③御殿倶楽部（旧山田御殿、現在蕎麦店）
「作品展示と坑内模式図」
上遠野敏作品、炭鉱坑内図特別展示
- ④花畑
「写真インスタレーション」
猪熊梨恵作品
- ⑤ズリ山入口、ズリ山
「赤平ライフコラージュ」「写真インスタレーション」
岩谷理恵子作品、猪熊梨恵作品
- ⑥抗口浴場（住友赤平炭鉱）
「上遠野敏とゆかいな仲間作品展示」
上遠野敏作品、柏尾和直作品、富田哲司作品
「オープニングセレモニー」「炭鉱写真展」
「炭鉱記録映画の上映会」「海外の炭鉱 映画上映会」
産業遺産を活かす地域活性化実行委員会と炭鉱の歴史を
保存・継承する市民会議の企画
- ⑦住友赤平炭鉱立坑
「住友赤平立坑の公開」
産業遺産を活かす地域活性化実行委員会と炭鉱の歴史を
保存・継承する市民会議の企画
- ⑧自走砕工場
「オープニングパーティ」
「琵琶の夕べ」二反田岳水（札幌市市民奨励賞）
「大鼓独奏」大倉正之介
（無形文化財総合認定保持者・日本能楽会会員）
産業遺産を活かす地域活性化実行委員会と炭鉱の歴史を
保存・継承する市民会議の企画

4.プロジェクト主旨

以下の通り、赤平炭鉱アートプロジェクトに先立ち、主旨をメッセージした。

●赤平炭鉱アートプロジェクト代表・上遠野敏

『私が生まれ育った近くに常磐炭鉱があった。石炭のガラが積み上がったぼた山（ズリ山）の傾斜角とそれを運ぶ一本のベルトコンベアーが子供心に地底からの位相を感じさせ、ある種のロマンを抱かせた。伯父の住む炭住に行くのが楽しみだった。整然と並ぶ木造の家々、連続して配置された水周りのふねと水道管。グリットの下水溝。まるでミニマル彫刻のような、不思議の国に入りこんだような連続性が好きだった。

あれから数十年、赤平炭鉱を見学させて頂いた。説明をお聞きして認識がかわった。炭鉱は人々の生活や安全を保証するコミュニティーの場であり、あらゆる英知を結集した巨大なコンツェルンであることが理解できた。そこには、誇り高い技術者のプライドと国策による現実が立坑の産業遺産のなかにあった。

我がふるさとはハワイアンのリゾートに生まれ変わった。赤平の立坑や浴場、自走砕工場にある大型採炭機器は魅力に満ちていた。北海道の歴史を、このまま残映として放置してはならない。皆様には、アートの力を媒介に、これらの産業遺産の重要性に着目してほしいと思っています。そして、今後、何が出来るのかを考える機会として頂きたいと願っています。また、札幌高専の元気な若者がコミュニケーションをアートとして人と人を丁寧につないで、赤平の街をにぎやかにします。

歴史と場の持っている意味を探りながら、赤平の人と共に、何が出来るのか、私達も楽しみにしています。ご声援をお願いします。』

5.事前準備

プロジェクト実施に際して、以下の事前準備を行った。

○上遠野敏作品

・展示場所の決定（抗口浴場、御殿倶楽部）、制作内容の決定、日程調整、人員配置、材料発注、制作、設営

○コン・プラ作品

・コン・プラ参加者説明会、募集、メンバー決定、打合せ、展示場所の決定（シブヤテクノ、ふれ愛はうす、市内各所）、制作内容の決定、日程調整、人員配置、材料発注、制作、設営

○ゆかいな仲間作品

・作家選定、依頼、展示場所の決定（抗口浴場、立坑壁面、シブヤテクノ、ふれ愛はうす、花畑、ズリ山）制作内容の決定、日程調整、人員配置、制作、設営

○人員配置

本プロジェクトは、本校の夏期休業の期間であり、赤平市に延べ 23 日間滞在して実施した。上遠野作品、コン・プラ作品、ゆかいな仲間作品とも、制作、搬入、設営、展示期間（展示当番、ワークショップ、パフォーマンス）搬出など項目ごとに、人々と交流するための人員配置を行った。

○宿泊

赤平市の地域住民交流のための施設、「幌岡交流センター」を借り受けた。寝具類を他の施設から貸与されるなど、宿泊施設として便宜を図って頂いた。食事は当番が調理室で作り、入浴は温泉施設へ通った。アート活動を通して合宿生活をしながら親睦を深めた。

○サイン計画

サイン計画デザイン：杉野公亮（専攻科 2 年）、清水美緒（本科 4 年）

協力：赤平ローターアクトクラブ、主催事務局

市内各所で行われているために市内 3ヶ所に案内看板を設置した。デザインから出力プリント、看板制作、取り付けなどを行った。他に、会場案内表示、作品キャプションなどを制作した。

○広報

主催者事務局の意向でポスター、チラシを作成した。

・炭鉱遺産キャンペーン事業（図-2）

「炭鉱を歩こう-そらち炭鉱遺産散歩-」

ポスター、チラシを駅や公共施設などに配布した。

ポスター、チラシデザイン：杉野公亮（専攻科2年）、
梅村守（グラフィックデザイナー）



図-2 「炭鉱を歩こう-そらち炭鉱遺産散歩-」

・炭鉱遺産空間活用事業（図-3）

「赤平炭鉱アートプロジェクト」

展示会案内として送付や赤平市内各所に配布した。

チラシデザイン：杉野公亮

キャラクターデザイン：清水美緒（視覚デザイン4年）



図-3 「赤平炭鉱アートプロジェクト」

○搬入、搬出

日程調整、運送業者手配、人員配置

6.プロジェクト概要

[展覧会名]

『赤平炭鉱アートプロジェクト』

「上遠野敏と札幌市立高等専門学校生（コン・プラ4）
とゆかいな仲間」展

-炭鉱（ヤマ）の遺産（タカラ）を掘り起こす-

[会期]

2004年8/9（月）～12（木） 搬入・公開設営

8/16（月）～29（日） 展示

9/4（土）～5（日） 撤収・搬出

[主催]

産業遺産を活かす地域活性化実行委員会

炭鉱の歴史を保存・継承する市民会議

実行委員会事務局：STVメディアフィールズ21

・特別協力

STV札幌テレビ放送

・特別協賛

赤平市、赤平商工会議所、札幌学院大学、J R北海道、シ
ービーツアーズ、助成：太陽北海道地域づくり財団

[上遠野敏とゆかいな仲間紹介]

○上遠野 敏

1955年生まれ。東京芸術大学大学院彫刻専攻修士課程修了、現在、札幌市立高等専門学校教授。

多種多様な素材を用い、人と人の関わりや日本の美意識をもとに、大掛かりなインスタレーション作品を中心に発表している。

北海道立近代美術館、北海道立旭川美術館、いわき市美術館、芸術の森美術館、ドイツ・ハンブルグ総合芸術館カンパナーゲルでの企画展やドイツ・ハンブルク CAI での個展などで活動を展開。

北海道立近代美術館や北海道立釧路芸術館、いわき市美術館でのワークショップ、滝野すずらん公園でのアースワーク制作と企画運営、札幌市生涯学習総合センターでの作品設置およびアートコーディネーター、「札幌駅南口モニュメント」設置、「札幌コンベンションセンター開館1周年企画「Beautiful Japanese Heart Project」アートディレクターなど企画運営にも関わる。

○柏尾和直

1977年生まれ。本校卒業、専攻科修了。京都芸大大学院博士課程在籍。映像や立体まで様々なメディアを使用した作品を展開中。作品形態：映像インスタレーション

○富田哲司

1977年生まれ。本校卒業、専攻科修了。1年間ロンドン留学。2002年4月から（株）プリズムに勤務、主にイベント映像を制作。作品形態：映像インスタレーション

○杉野公亮

1982年生まれ。専攻科2年。視覚伝達デザインを専攻し、映像作品やパラパラマンガなどの作品を展開中。作品形態：パラパラマンガ

○猪熊梨恵

1985年生まれ。建築デザイン5年。2002年IDスタッフ参加、2003年コン・プラ代表、2004年3月STEP2004企画担当、2004年9月第2回目学生STEP実行委員会委員長を務める。本プロジェクトで「ゆかいな仲間達」のディレクター。作品形態：写真インスタレーション

○岩谷理恵子

1984年生まれ。工芸デザイン5年。2002年ID作品参加。作品形態：赤平ライフコラージュ

○峯恵実

1984年生まれ。工芸デザイン5年生。作品形態：ガチャポン

○溝口芳恵

1985年生まれ。建築デザイン4年。2002年ID代表、2003年コン・プラ参加。作品形態：絵

○中西真美

1985年生まれ。工芸デザイン4年。2002年ID作品参加、2003年コン・プラ参加。作品形態：半立体の絵

○出口しづか

1985年生まれ。工芸デザイン4年生。2002年ID作品参加、2003年コン・プラ参加。作品形態：絵

○山田茉莉

1986年生まれ。本校3年。2003年コン・プラ参加。作品形態：オブジェ

○橋本愛里

1986年生まれ。本校3年。2003年コン・プラ参加。作品形態：オブジェ

[コン・プラ紹介]

○「コン・プラ」

本校学生の自主活動である。街に出てアートを通して人々とコミュニケーションを取る現代アート活動。

『コン・プラとは？コンセント・プラグの略。私たちコン・プラ学生が街の人々とコミュニケーションをとりたい。人と人とを繋げたい。そんな思いから、コン・プラは誕生しました。今回は舞台を赤平に移し街の人々とコミュニケーションを図り、大きく3つのイベントを行います。まず1つ目は赤平の素材や自然を使ってコン・プラの痕跡を残します。2つ目は2、3日おきに、商店街でワークショップを行い、巨大紙芝居や、風船に想いをこめて世界へ発信する作品を赤平の皆さんと一緒に作ります！3つ目はアート作品の販売です。作品はシブヤテクノで毎日販売し、アートを身近に感じられる面白い作品をたくさんご用意しております。街中で私たちを見つけたら是非声をかけてください。』

○コン・プラの歴史

・札幌狸小路商店街（1丁目～7丁目）オブジェを満載した自転車で移動型作品展を開催（2003年8月2日・3日）
・GEISAI4 終わらない学園祭（主催：GEISAI 実行委員会）に参加（2003年9月14日）

・Lifetown art tour /主催：仙台市 に作品参加（2003年12月12日～14日）

代表が猪熊梨恵から下田麻美に代わる。（2004年7月）学外での自主活動は、今回で4回目となる。

○コン・プラ代表

下田麻美（工業デザイン4年）

○メンバー紹介

・1班コン・プラ隊

リーダー：下田麻美、馬場友美（工芸デザイン4年）

佐藤弥生、庄司沙和子、真藤溪（2年）、佐藤杏那、鈴木美侑里（1年）

・2班コン・プラ隊

リーダー：清水美緒（視覚デザイン4年）、今泉友希（工業デザイン4年）

猪部美里、田中優、伊達楓（2年）、

小笠原紫紋、高垣美帆（1年）

・3班コン・プラ隊

リーダー：奈良怜美（環境デザイン4年）

駒崎奈都子（環境デザイン4年）藤川茜（視覚デザイン4年）、佐藤菜生、奈良詩織（1年）

・4班コン・プラ隊

リーダー：池田寛美（視覚デザイン4年）

滋野愛（建築デザイン4年）、小川真知（3年）、稲垣茉莉子、功刀悠花、（2年）、湯村麻衣花（1年）

・5班コン・プラ隊

リーダー：下田麻美、馬場友美

谷口希美（視覚デザイン4年）、真藤溪、高橋拓那（2年）、佐藤杏那、鈴木美侑里（1年）

7.実施内容

赤平市内、①～⑧の場所で、「赤平炭鉱アートプロジェクト」を実施した。展示場所、作品内容などは、以下の記載をお読み頂きたい。表記数字は、(図-1) 赤平炭鉱アートプロジェクトマップと連動している。

(B)空き店舗での展示：シブヤテクノ

赤平の商店街は、閉店してシャッターが下りている店舗も多い。シブヤテクノは赤平駅に近いメイン通りにある店舗名である。以前は仏壇屋、その後バック店が入っていた。現在、冠婚葬祭業を営まれている持ち主の好意で空き店舗を貸して頂いた。徐々に開放された店舗は、掃除から始め、ショーケース、床の間、壁面、床に、「ゆかいな仲間」や「コン・プラ」が装飾や展示をした。

○作品展示・販売（写真-2、3、4）

日時：8/16（月）～29（日）10：00～17：30

作家：柏尾和直、杉野公亮、出口しづか、中西真美、溝口芳恵、峯恵実、山田茉莉、橋本愛里、「コン・プラ」

「ゆかいな仲間」と「コン・プラ」が、人々とコミュニケーションを取りながら作品を展示・販売した。

協力：櫻庭茜（視覚デザイン4年）、蛭澤充子（3年）

○赤平平カラオケ（写真-5）

日時：8/16（月）～29（日）11：00～16：00

作家：柏尾和直 協力：パラモデル、岩本康治

協賛：合同酒精株式会社 資材協力：植村建設（株）

「赤平平カラオケ」セットを作り、地域の皆さんとカラオケで触れ合った。100円で3曲、ドリンク付きのサービスを行った。



写真-4 シブヤ・テクノ展示

永く閉ざされていた、空き店舗、シブヤテクノのシャッターが開き、街に活気を与えた。物珍しさも手伝って地元の方々や見学者が大勢来場した。「ゆかいな仲間」の作家や「コン・プラ」は会場に工夫を凝らした装飾や作品を展示した。アートを通して人々とコミュニケーションを取り、アートを身近なものにするために、作品を廉価で販売もした。地域と一層交流するために、近くの商店からお借りした品々も作品として展示した。メインは「赤平平カラオケ」で、人々との交流を一層促進して好評であった。建設会社の協力で資材を借り受け、青空カラオケのスタイルを取り入れた現代アートである。



写真-5 赤平平カラオケ



写真-2 シブヤ・テクノ外観



写真-3 シブヤ・テクノ展示

②コン・プラ移動型イベント

赤平商店街などで、総勢30名、5班のコン・プラ学生が、交代で様々なイベントや作品の販売を行った。

日時：8/16（月）～29（日）10：00～17：30

場所：商店街・駅に近い花畑・浴場近くの花畑など

拠点：ふれ愛はうす

○移動型販売（写真-6）

市内を移動しながら、手作りの小品を廉価で販売して人々と交流した。写真の上で、人と人がロープでつながるネットワークのアートも実施した。



写真-6 コン・プラと赤平の人々

○コン・プライベート

赤平の人々と交流を促進するイベントを行った。

● 巨大紙芝居を作ろう

8月17日(火) 第1回目 13:30~14:30 第2回目 15:30~16:30

場所: 浴場近くの畑

子供たちと巨大な紙芝居を作り、パフォーマンスを入れて物語を語った。

● 赤平コン・プラしゃぼん玉を作ろう(写真-7)

8月19日(木)・20日(金) 第1回目 19日 14:00~16:00
第2回目 20日 13:00~16:00

場所: 駅に近い花畑・浴場近くの花畑・抗口浴場

洗剤にいろいろな素材を入れ、人々と触れ合った。



写真-7 しゃぼん玉を作ろう

● ローソク出せー出せよー

8月25日(水) 19:00~20:00

場所: 赤平市内商店街

夕方、商店街に繰り出し、ローソクやお菓子とアート作品を交換して交流をした。

● 風船にメッセージをつけて飛ばそう

8月26日(木) 15:00~16:00

場所: 駅に近い花畑

思い思いにカードにメッセージを書いて風船につけて飛ばした。思いは誰に届くのだろうか。

● レインボーフィナーレ・水と花のアートプロジェクト

8月28日(土) 14:00~15:30

場所: 浴場近くの花畑(写真-8)



写真-8 レインボーフィナーレ

抗口浴場周辺の雑草を時間差で刈り取り、枯れた状態から、刈り取ったばかりの新鮮な状態までレインボーのようにグラデーションにしたアースワーク。

制作協力: 植村建設(株)

③炭鉱遺産・山田御殿(現、御殿倶楽部)での展示

日時: 8/16(月)~29(日) 御殿倶楽部の営業時間内

作家: 上遠野敏

蕎麦店「御殿倶楽部」の好意で、店舗内に展示した。床の間には、人々の夢を叶える「夢かなえ地蔵」を展示。縁側に、炭鉱坑内の美しいアートとも言える奔別炭鉱の「坑内模式図」を展示した。

・山田御殿(現、御殿倶楽部)とは

戦後、住友赤平炭鉱の下請けとして、大きな財を築いた山田三郎氏が1951年に建てた邸宅。炭鉱全盛時代を象徴する邸宅は、住民から「山田御殿」と呼ばれてきた。

現在は移築改修工事を経て「御殿倶楽部」の名で蕎麦店が営まれている。炭鉱遺産の活用例である。

○夢かなえ地蔵: 上遠野敏作品(写真-9)

夢かなえ地蔵1体、夢かなえ札、夢札、夢札貼り棒2本、鉛筆&のり

蕎麦店に来店された方々が、夢札に夢を書き、夢札貼り棒に貼ってもらった。夢かなえ札はお持ち帰り頂いた。赤平市民や遠方からの来場者と心の交流をした。



写真-9 夢かなえ地蔵

○坑内模式図(写真-10)

協力: 炭鉱の歴史を保存・継承する市民会議



写真-10 坑内模式図展示

④写真インスタレーション展示

作家の目から見た赤平をちょっと変わった方法で展示。

日時：8/16（月）～29（日） 常時展示

場所：浴場近くの花畑・ズリ山

作家：猪熊梨恵（写真-11）

赤い BOX の、のぞき穴から見える景色をカメラに収め、BOX 内に写真を展示。いつもと違った赤平を見る作品。



写真-11 写真インスタレーション

⑤赤平ライフコラージュ展示

赤平の人々の笑顔を写真で表現。

日時：8/16（月）～29（日） 常時展示

場所：ズリ山前の入り口の道

作家：岩谷理恵子（写真-12）

ズリ山の入口周辺を写真でインスタレーションをした。赤平の人々やプロジェクトの関わった人の笑顔を写真で撮影し展示をした。町に笑顔と活性化を祈る表現である。



写真-12 赤平ライフコラージュ

⑥上遠野敏とゆかいな仲間作品展示

坑口浴場の記憶を呼び起こす作品展示と映像インスタレーションを行った。

日時：8/16（月）～29（日） 11：00～16：00

場所：坑口浴場（住友赤平立坑前）

作家：上遠野敏、柏尾和直、富田哲司

協力：住友石炭鉱業（株）、赤平市、ニッショウ（株）、植村建設（株）、ローター・アクトクラブ、電器工事・村田誠一（赤平市教育委員会）、産業遺産を活かす地域活性化実行委員会、炭鉱の歴史を保存・継承する市民会議企画

制作協力：山岸勉、石野小夜子、後藤未来、山内香奈、堀込恵美、杉野公亮、蛭澤充子、菅原雅明

・坑口浴場とは

住友赤平炭鉱は、平成6年2月に閉山した。坑口浴場は、その後、樹脂成形の事業所として使用されていたが、ここ数年は資材置き場となっていた。今回、赤平市の要請と住友炭鉱業（株）の計らいで、10年ぶりの一般公開となった。

坑口浴場は立坑から国道の地下を通路で繋がっていて、従業員の安全を確保していた（現在は閉鎖）。毎日の仕事始め、仕事終わりに着替えや入浴のために浴場に集まってくる。石炭採掘の労働は、3交代制で8時間勤務である。一度に1,000名程度の炭鉱労働者が入れ替わりに、ここを訪れる。

更衣室は、およそ3,600名分の収容の脱衣所である。天井に滑車があり、鉄線製の脱衣カゴをワイヤーで上げ下ろしして着替えていたと言う。脱衣カゴはドイツ式の方法で、ロッカーのように場所も取らずに、大勢の人員分を用意することが出来る。坑内で汗だくの作業着も温風で乾燥できるシステムになっていた。何と言っても特筆すべきは、巨大な風呂が四槽あり、1,000名が一度に押し寄せる姿は壮観で、写真で往時をしのぶことが出来る。

他に、清掃業務の女性用更衣室、浴室、各1に監視所などがある。

○上遠野敏作品

●地下の天使は地上で羽を脱ぐ（写真-13）

h4.6m×w7.5m×d22m（作品空間）

更衣室空間、天井の滑車700個程度、外光、ワイヤー、衣類、カゴ（当時もの10個）、竹ヒゴ、マスキングテープ、まゆ玉、スパー地蔵他

ここを訪れる炭鉱に従事されていた方は、10年ぶりの公開に感慨深げであった。自分の使っていたカゴの場所や思い出を口々に話して行かれた。

作品は、実際に使用していたカゴを、炭鉱資料室から10個（現存は、10個のみ）借用して、総数107個のカゴを設置して、脱衣所の情景を造形した。記憶や時間が一杯詰まった空間は、人々がにぎやかに行き来する、そんな気持ちにさせた。制作前に70%程度完成している空間に、作品でコメントを入れさせてもらい往時の情景を表した。



写真-13 地下の天使は地上で羽を脱ぐ

●ゆあみの分水嶺（写真-14）

h5m×w6.8m×d12.7m（作品空間）

浴室空間、水、外光、石けん、真鍮

現存する男性用風呂は2槽だけである。一際大きい浴槽は8.5m×2.7mあり、シンメトリーな浴室空間は神秘的であった。浴槽の縁に水を張り表面張力を作った。過酷な労働を終えた安堵感を、湯あみの前後の分水嶺に例えた。石けんの香りで、鼻腔の奥にある浴室の遠い記憶を甦らせた。

作品を制作する者にとって、このように美しく、刺激的な場所はあるまい。時間の厚み、人々の想い、空間の重み、すでに作品は完成されている。最小の行為を入れて作品コメントとした。見る人々が物語を語り出すであろう。



写真-14 ゆあみの分水嶺

●黒いダイヤと黄金の対価（写真-15）

h3.5m×w5m×d12.7m（作品空間）

浴室空間、外光、金貨を模した物（木）、塗料

この浴槽（6.5m×2.4m）は、薬湯用で疾病された方が入浴したと言う。浴槽の縁に、3,400枚の金貨、銀貨を模した物を置いた。薄暗い空間に差し込む光に照らし出されて美しい情景となった。搾取する側とされる側の社会のシステムを黒いダイヤと黄金の対価として表現した。



写真-15 黒いダイヤと黄金の対価

●地底からの使者（写真-16）

h5m×w6.8m×d2.9m（空間）

地藏六体、外光

住友赤平炭鉱は安全対策に力を注ぐことにより、大きな炭鉱災害がなかった。戦時中は労働者不足により朝鮮人や中国人が強制労働を強いられた。労働者の半数が外国人労働者だったから驚く。当然ながら尊い命を落とされた方も多し。戦後から閉山までも、小さな事故は度々あって犠牲なられた方も多しと聞く。六地藏が御霊の慰めとなってくれることを祈る。



写真-16 地底からの使者

○柏尾和直作品

●陰∞隠輪花（写真-17、18）

映像インスタレーション：プロジェクター、DVDデッキ、反射鏡、女性用浴室空間

抗口浴場には、清掃業務の女性が使用していた小さな風呂がある。また、石炭産業はドイツから学ぶことが多く、派遣先でドイツ人女性と結婚する人もいた。日本に連れてくるが、ドイツ人妻が大衆浴場などの風習に馴染めず、一人ここの風呂を使ったと言う。異国の地に来て湯船の中で、彼女は何を思ったのであろうか。

作品は、星の王子さまをヒントに、男の聖と濁の二面性を表した15分のアニメーション映像を浴室の水面に映写した映像インスタレーションである。脱衣所には制作に使用したオブジェを展示した。



写真-17、18 陰∞隠輪花

●赤平ライブ（写真-19）

映像インスタレーション：バックヤードスクリーン、プロジェクター、DVDデッキ

○炭鉱の歴史を保存・継承する市民会議企画

●炭鉱写真展（写真-19）

炭鉱の歴史を保存・継承する市民会議が所持している炭鉱の日常生活や仕事の様子、町の姿など、なつかしい炭鉱の写真展示した。人々は写真を見ながら昔の生活や思い出を語り合っていた。それと対に、柏尾は現在の赤平商店街の映像を流した。人々は、時間軸の中で、炭鉱産業の繁栄と現在の姿をどのように映ったであろうか。



写真-19 赤平ライブ&炭鉱写真展

○富田哲司作品

●..and he became a fly doop loop ver. (写真-20)

映像インスタレーション：プロジェクター、DVDプレーヤー、パワースピーカー

立坑と浴場を結ぶ地下通路の出口（現在、地下道は塞がれている）付近の空間を映像インスタレーションした。

映像は、五月蠅いハエを題材に、生前の行いの善悪で、天国か地獄へ。夢とうつつを往還しながら映像はエンドレスで進んで行く。炭鉱の地下通路を結んで深く長く繋がる抗道とイメージがリンクをする。



写真-20 ..and he became a fly doop loop ver.

●The time went on (写真-21)

映像インスタレーション：モニター、DVD、ライトBOX

監視員の控え室を使用した映像インスタレーション。

テレビモニターには立坑や抗口浴場の写真映像が流れ、ライトボックスには赤平の町や炭鉱の写真コラージュが映されている。狭くそこはかたない部屋に現在と過去が交差した。



写真-21 The time went on

●赤平炭鉱映像プロジェクション (写真-22、23)

日時：8/21 (土) 19:00~20:00

住友赤平炭鉱立坑の壁面に巨大な映像を投影した。赤平炭鉱アートプロジェクトのアニメーションと柏尾和直による「人間楽器パフォーマンス」のコラボレーションをした。映像は市内からも見え、町に活気を与えた。



写真-22 赤平炭鉱映像プロジェクション

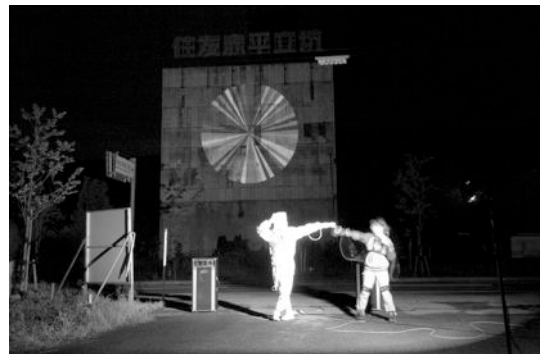


写真-23 映像プロジェクション&パフォーマンス

○産業遺産を活かす地域活性化実行委員会と炭鉱の歴史を保存・継承する市民会議の企画

●炭鉱記録映画の上映会

日時：8/14 (土) 13:00~14:30

●海外の炭鉱 映画上映会

日時：8/22 (土) 13:00~14:30

炭鉱の記録映画、ドイツ炭鉱の記録映画が上映された。他に、ルール地域の産業遺産を再生し、活用例を取材した研修報告も行われた。

●オープニングセレモニー (写真-24)

日時：8/16 (月) 17:00~

オープニングセレモニーが行われた。住友炭鉱、赤平市商工会議所、赤平市長、助役をはじめ赤平市職員、太陽北海道地域づくり財団、産業遺産を活かす地域活性化実行委員会、炭鉱の歴史を保存・継承する市民会議など、関係する市民を交えて、主催者挨拶、赤平市長挨拶、来賓挨拶など、「上遠野敏と札幌市立高等専門学校学生(コン・プラ4)とゆかいな仲間」展の歓迎の意と赤平炭鉱アートプロジェクトの幕開けを行った。柏尾和直による「人間楽器パフォーマンス」が花を添えた。



写真-24 オープニングセレモニー

⑦住友赤平立坑の公開 (写真-25)

日時：8/14 (土)・21 (土)・22 (日)・29日 (日)

13:00～16:00

産業遺産を活かす地域活性化実行委員会・炭鉱の歴史を保存・継承する市民会議・赤平市・住友赤平鉱業(株)の企画で、住友赤平立坑の公開が行われた。

住友赤平立坑は、昭和38年建設。立坑やぐら高さ43.8m、立坑直径6.6m、規模深さ600m(最深部800m)、抗道の総延長100～200km。現在、立坑および抗道内は、ガス噴出などの安全性確保のために完全密封されて立ち入ることは出来ない。立坑は地下の炭田まで延びる巨大なエレベータで、鉱員の人員配置や石炭の輸送に大きな力を発揮した。閉山後、そのままの状態にある建屋とヤードを公開した。二基敷設された大型の巻き上げ機の立坑やぐらや操作盤、トロッコなど往時の繁栄の姿をとどめている。



写真-25 住友赤平立坑ヤード

⑧自走柁工場でのコンサート

赤平市市制50周年記念、赤平商工会議所50周年記念

○琵琶の夕べ

日時：8/21 (土) 17:30～

演奏者：二反田岳水(札幌市市民奨励賞)、斉藤紫水

○大鼓(おおつづみ)独奏「今宵は満月、月下の調べ」

日時：8/29 (日) 17:30～

演奏者：大倉正之助

(無形文化財総合認定保持者・日本能楽会会員)

産業遺産を活かす地域活性化実行委員会・炭鉱の歴史を保存・継承する市民会議企画

自走柁工場は石炭採掘機器のメンテナンス工場であった。現在は採掘用ロードヘッター、ドラムカッター、シャトルカー、ロードホールダンプなどの大型重機の展示場となっている。2003年に、アジアで初めて開催された第6回国際鉱山ヒストリー会議赤平大会のために、元炭鉱マンが、空知川河川に放置されていた重機をすべて整備して展示してある。ユネスコの世界遺産査定官のステュアート・スミス氏(イギリス)から「空知管内の炭鉱遺産は世界遺産級の価値がある」との評価を得る。

今回は、石炭採掘機器を活かしたステージを作り、産業遺産とのコラボレーションした。琵琶法師の二反田岳水氏と斉藤紫水氏、赤平炭鉱アートプロジェクトのフィナーレを飾る大鼓の大倉正之助氏の演奏は人々を感銘させた。大倉正之助の計らいで、柏尾和直の「人間楽器パフォーマンス」との共演や、ステージ上での本校学生との大鼓ワークショップも行われた。(写真-26、27)



写真-26 琵琶の夕べ



写真-27 大鼓とパフォーマンス

8.人々との協働

赤平市内各所で行った本プロジェクトは、筆者、札幌市立高等専門学校学生、卒業生、制作協力者、主催者、赤平市の関係者及び行政の協働で作られて、市民や来場者とのコミュニケーションによって作品が完成されたと言える。

抗口浴場(住友石炭鉱業)、空き店舗(シブヤテクノ)、ふれ愛はうす(赤平中央商店街振興組合)、御殿倶楽部(蕃

麦店)、ズリ山、花畑などの会場供与。電気設備のない抗口浴場には、発電機の貸与、配線や事前の片付け清掃や諸道具の便宜。また現地で制作するための素材となる資材や加工、組立、運搬などに惜しみない協力が得られた。

また、生活面でも、心のこもったオープニングパーティの開催。普段、宿泊設備ではない幌岡交流センターを長期滞在するため宿舎にして頂いたり、滞在中の布団の貸与や食費、食料品などの差し入れ、筆者不在時の学生の移動など、親身になってお世話頂いた。人々の励ましや支援、共に作る協働体制が、本プロジェクトの実施に大きな力を与えた。

サブタイトルの「炭鉱（ヤマ）の遺産（タカラ）を掘り起こす」「赤平の街を若者達がアートの力でにぎやかにします！」の目標は、市民や元炭鉱に従事していた方や遠方から訪れた大勢の方に、会場での語らいの場をもたらし、産業遺産の重要性や活用方法を示唆したと言える。商店街での展示や街に繰り出す参加型の作品は、相互に直接的なコミュニケーションを発生させて、街をにぎやかなものにする事が出来た。

本プロジェクトに関わった、作り手、協力者、来場者が、それぞれの役割の中で、誰もが主役となれる協働システムが作れたと考える。

9.教育的効果

作家として、教員として、学生の創造性を開発するためには、学外での自主活動を支援し、共に体験を通して成長していくことが涵養であろう。

教員、学生が共に関わりながら、自主的に企画を練らせて、参加者を募り制作する。搬入をする。作品を見せる工夫を考え展示をする。人々をどのように楽しませるのかコミュニケーション方法を考え実践をする。赤平の人々から支援を受け、感謝しながら協働でプロジェクトに参画する。教員の制作姿勢や作品から意識を学ぶ。このように、現場でのダイレクトな体験が貴重な経験となった。学生の意識はより高まって、デザインやアートを超越した、街づくり、人づくりの考え方を学び、礎となったことであろう。

また、合宿生活で寝食を共することは、相互の理解が以前より益して、交流が促進する。共に学び、ともにアート活動で表現する。その体験から、個々を尊重、尊厳することが、自己表現の自由を保証する最も大切な事を認識するようである。

9.成果

本プロジェクトは、予想以上の反響があり驚いている。3紙9件の新聞記事に掲載されたり、2件のテレビ報道など、札幌市立高等専門学校の学生、卒業生、教員を交えて、アートの力で産業遺産を活用したり、赤平の街を活性化するアートプロジェクトは、話題性もあり、好感をもって迎えられたと言える。

本プロジェクトの実施によって、住友赤平炭鉱の抗口浴場を産業遺産として、新たな活用方法を示せたのではないかと考える。あわせて赤平の街の活性化や発展に微力ながら寄与して、人々に赤平の街を印象付けたことであろう。今後、地域の方々や行政は、新たな方向性と活用方法を、示して行くことであろう。関係者一同、意を共にして熱意をもって作り上げたプロジェクトの成果であると言える。今後の展開が楽しみである。

一番の成果は、地元の人々が、私たちに好感を持って接して頂き、特に学生を可愛がって頂いたことにある。本校の教育は、“Be Beautiful”「美」という日本で出来た漢字は美しくあれ！自ら考え自ら行動をすることにある。校内での「挨拶」も指導した訳ではなく、学生、教員、職員が自然発生的にしている。こんな姿勢が、アートプロジェクトを通ずして評価されることが、この上なくありがたいことである。

10.終わりに

このようなプロジェクトに関わることが出来たことを誇りに思う。学生も自信を深めて、今後の成長が大いに期待出来る。発表の場を頂いたことに感謝したい。今後も、北海道や地域の発展のために、活動したいと考えている。最後に、このプロジェクトは下記の方々に協力を頂いた。紙面をお借りして感謝申し上げたい。(敬称略)

■住友石炭鉱業：山口政美 ■植村建設：植村真美、植村とみ子、植村正志（社長） ■赤平商工会議所：西出勝利（会頭）、山道功 ■赤平商店街振興会：佐藤元紀（理事長） ■ベルコ：渡辺修（シブヤテクノ） ■御殿倶楽部：原真、原敬子 ■ニッショウ：田中直明 ■ウリ化粧品：瓜郁夫 ■ローターアクトクラブ：大寶勝洋 ■赤平市：大工信也、高橋脩、田村誠一 ■炭鉱の歴史を保存・継承する市民会議：吉田勲 ■産業遺産を活かす地域活性化実行委員会：吉岡宏高 ■STV：秋元節男、伊坂重孝 ■他に大勢の方々から、ご支援、ご協力を受けた。(写真-28)



写真-28 感謝のクロージングパーティー